

日高地区 新規就農者紹介



【就農のきっかけ】

地元の高校（苫小牧工業高校）卒業後、自動車製造業（愛知県、北海道）に従事していました。

そのころ報道等で見聞きした国内農業における食料問題（生産量減少・担い手不足等）について、危機感を感じるとともに農業に興味を持ちました。

北海道出身ということもあり北海道農業担い手育成センター（北海道農業公社）に架電し、新規就農者を募集している自治体を紹介してもらいました。夫婦での就農や自己資金不足など、希望通りのところはなかなか見つかりませんでした。

そのような中、日高町は条件も難しくなく、役場職員やJA職員の皆さんの対応が非常に良かったことや出身地と近かったことなどもあり就農を決意しました。

2026年7月取材

笠原 慎二 さん（日高町）

就農年：2025年6月

経営形態：施設園芸

作物：ミニトマト ハウス 4棟（約20a）

【活用した事業】

- 農林水産省「就農準備資金・経営開始資金」、「経営発展支援事業」
- 日高町「日高町新規就農者促進対策事業」



農薬散布機



トラクター

【就農して感じたこと】

地域おこし協力隊での3年間も含め、いろいろな農作業を経験しましたが、意外と合っているなと思いました。

今も時期によっては早朝から夜遅くまで作業が続きますが、「仕事」をしている感はないですね。好きでやっているから苦にならないです。

【就農して苦勞したこと】

好きでやっていることでもあるのでそれほど苦勞は感じていませんが、生育状況による防除等の管理、収穫時期におけるパートのマネジメント等経営者としての難しさを感じ始めています。

作業や管理のミスで減収になるリスクは常にあるので、丁寧な作業を心がけています。

【工夫している点】

単管パイプを支柱にしてエスター線を十分に張って、トマトの誘因作業の効率化を図っています。エスター線は収穫が終わっても撤収しないで、次の栽培に使用しています。



支柱にしている単管パイプとエスター線



【オフタイム（冬場含め）の過ごし方】

ジムで週4日程度筋トレに励んでいます。昔は山登りが趣味で羊蹄山にも登りましたが、今は休止中です。



ハウス内のトマト



アライグマ用箱わな



ハウスで作業をする笠原さん

【今後の展望】

今後は年間を通して安定して仕事がしたいので、春のアスパラガスや冬の寒締めほうれんそうの栽培にも挑戦しようと思っています。

ですが、ここ何年か、特に今年は中東問題もあり資材や燃料が高騰してますので、再利用など出来るだけ効率よく取り組まないといけないので大変です。

【今後、就農する方々に伝えたいこと】

やってみないと分からないところもありますけど、農業が好きな人だったら乗り越えられるのではないのでしょうか。

やらされてる感が出てくると辛いと思うし、どうしようもないから、耐えるしかなくなるので。

経験しないとわからないという方は、アルバイトとか、収穫体験とかありますので、一度農作業をやってみるのもいいと思います。私も、アルバイトやお手伝いをやりましたが、同じ収穫でもアルバイトとかの収穫と、自分で経営して自分のものとしての収穫じゃ感覚的に全く違うんですよ。バイトで時給いくらだと「早く終わらないかな。」になりましたが、今は朝が早くても、夜遅くなっても全然苦になりませんから。

農業が好きならやってみるのがいいと思います。